

第19巻, 第20巻 総目次

昭和31年度, 第19巻 第1号～第20巻 第6号

第19巻 [特集題目]

人口問題の焦点	1号
最新の子防接種	2号
学校保健衛生(1)	3号
”(2)	4号
原子力と公衆衛生	6号

[綜 説]

近代の人口問題の歴史の変遷	館 稔	1～1
産業と人口	黒田 俊夫	1～7
受胎調節と人工妊娠中絶の出生に及ぼす影響	久保 秀史	1～10
年令訂正出生率並びに年令階級別出生率による諸国出生状況の比較観察	瀬木 三雄, 他	1～15
出生に影響する生物学的, 社会的, 心理学的要因	木村 正文	1～22
寿命と人口	渡辺 定	1～33
人口問題としての結婚	村田 宏雄	1～38
食糧と人口	渡部十之介	1～43
第5回国際家族計画会議をめぐる二, 三の所感	村松 稔	1～48
人口錯覚	館 稔	1～54
免疫の基礎理論	及川 淳	2～1
ウイルス病ワクチンの展望	福見 秀雄	2～8
不活化ウイルスワクチンに対する幼齡動物の免疫態度について	中村 稔治	2～15
予防接種実施の立場から	山下 章	2～18
百日咳ワクチン	山本 郁夫	2～24
破傷風トキソイドについて	村田 良介	2～27
デフテリア	黒川 正身	2～31
小児麻疹のワクチンについて	北岡 正見	2～40
インフルエンザ・ウイルス・ワクチン	深井孝之助	2～46
日本脳炎ワクチンに就いて	安東 清	2～49
狂犬病ワクチン	長野 泰一	2～53
学校保健の課題	塚田 治作	3～1
学校環境の衛生管理	高橋 唯良	3～5
学校における健康管理	内田 早苗	3～13
教職員の健康管理	武光多四郎	3～17
学校身体検査	成田 功	3～35
特殊児童生徒の健康指導	重田 定正	3～39
学校における伝染病の予防	今井 清	3～45
学校医, 学校歯科医, 学校薬剤師の問題	水野 俊夫	4～1

養護教諭の職務	千葉 たつ	4～5
学校保健主事の問題について	八田 宏	4～9
学校保健と公衆衛生	宮坂 忠夫	4～13
学校保健と保健所	高塚 太吉	4～19
学徒の体位の現状	久保 秀史	4～21
学校における健康教育の現状	荷見秋次郎	4～26
学校における安全管理と安全教育	高梨 湛	4～32
学校給食のあり方	中村 鎮	4～38
学校歯科衛生	竹内 光春	4～45
へき地の学校保健対策について	杉浦 守邦	4～52
衛生教育国際会議の本年の課題	齋藤 潔	5～5
ポリオワクチンのその後	甲野 礼作	5～7
新しい殺虫剤の功罪	鈴木 猛	5～15
黄変米はどうなつたか	遠山 裕三	5～21
原子爐について	小林 久信	6～1
核分裂生成物の処理	浜田 達二	6～11
空気汚染について	江藤 秀雄	6～15
放射性廃棄物の処分	左合 正雄	6～17
従業員の健康管理	吉沢 康雄	6～22
食品汚染について	檜山 義夫	6～26
放射性アイソトープの治療への応用	宮川 正	6～31
アイソトープの医学研究への応用	三浦 義彰	6～39
原子力の公衆衛生への応用	豊川 行平	6～46

[研究報告]

シツクテストの疫学的検討	今井 清	3～49
高津保健所のデフテリア百日咳定期初回免疫の実状と実施上の社会的要因	石丸寅之助	3～54
集団検診上喉頭粘液塗抹染色による結核菌検出の意義	菅野 寛一, 他	3～57
バスの車内換気に関する実験的調査	鈴木 武夫, 他	5～25
災害地における受胎調節(1報)	掃部 俊造, 他	5～31
常用消毒剤の効力について	拝郷比呂志	5～33
毒蛾について	森下 哲夫	5～35
運動直後における体温測定の方法論	村上カオル	5～38
流行性肝炎による汚染の疫学的指標	今井 清, 他	5～40
豆腐による流行性肝炎の多発例	与謝野 光, 他	5～43
日本脳炎ウイルスに及ぼす塩素		

消毒の影響……………	時任 直人	5~49
ビペラジンハイドレイトによる		
蟻虫集団駆虫成績……………	前田嘉右衛門, 他	6~51
水害時の井水の衛生学的問題……………	武田真太郎, 他	6~52

〔口 絵〕

公衆衛生関係の春の学会から……………	5~1
--------------------	-----

第 20 卷 〔特集題目〕

最近の医学の話題……………	2 号
健康教育と公衆衛生教育……………	5 号

〔綜 説〕

	号	頁
新しい感染症(1)……………	松田 心一	1~1
疫学調査の方法……………	宮入 正人	1~25
炎症の微小環境メカニコフ説の 改訂……………	田多井吉之介	1~25
医療保障の問題点……………	近藤 文二	1~44
癌代謝の生化学……………	三浦 義彰	2~1
癌の診療及び治療……………	太田 邦夫	2~4
発癌物質……………	梅田 真男	2~6
ノイローゼと病院……………	井村 恒郎	2~10
精神病の治療……………	関根 真一	2~11
精神身体医学……………	土井 正徳	2~14
性格検査……………	上出 弘之	2~16
色彩調節……………	稲村 耕雄	2~18
遺伝病……………	駒井 卓	2~20
脳下垂体とその作用……………	中屋 健	2~22
血液銀行……………	加藤 勝治, 他	2~26
人間ドック……………	小山 善之, 他	2~28
老人病学について……………	大島 研三	2~32
臨床生化学検査の動き……………	佐藤 徳郎	2~34
抗生剤によるアレルギー……………	上田 泰	2~36
最近の細菌ウイルス学の話題……………	福見 秀雄	2~39
労働衛生……………	勝木 新次	2~42
不妊症……………	山口 哲	2~44
精管切除術……………	金子 栄寿	2~48
麻 酔……………	稲田 豊	2~51
心臓外科……………	杉江 三郎	2~54
整形外科の話題……………	佐藤 孝三	2~56
肺外科の進歩……………	宮本 忍	2~58
血清疫学の理論と実際……………	金光 正次	3~1
流行性肝炎の臨床と病理……………	小田 正幸, 他	3~11
流行性肝炎の病原と疫学……………	児玉 威	3~16
新しい感染症(2)……………	松田 心一	3~24
給食施設の監視指導の要点……………	金原 松次	3~37
わが国公共水の汚濁とその防止 対策……………	田辺 弘	3~42
連鎖球菌感染症(細菌学及び		

免疫学の立場より)……………	草間 秀夫	4~1
溶連菌感染症……………	香川 修事	4~16
急性腎炎の疫学……………	平山 雄	4~25
猩紅熱トキソイドについて……………	沢井 芳男	4~35
東京都内に於ける急性腎炎の流行 に就いて……………	山口 与四郎	4~41
衛生教育と公衆衛生……………	楠本 正康	5~1
民衆を行動にかりたてる動因……………	乾 孝	5~2
教育とコトバ……………	国分一太郎	5~9
地区衛生組織活動について……………	宮坂 忠夫	5~17
衛生教育の媒体とその長短……………	佐藤 恒信	5~23
衛生モデル地区の主婦たち……………	小川 一郎	5~29
学校健康教育の現状……………	下田 巧	5~33
学校健康教育の現状—その反省と 批判—……………	上庄 洋	5~38
職場における衛生教育……………	戸田 弘一	5~41
職場における衛生教育……………	高師 岡	5~46
統計の誤用……………	立川 清	5~51
集会の技術……………	石垣 純二	5~73
私の衛生教育時代……………	加藤 光徳	5~78
最近のWHOの活動……………	山口 正義	6~1

〔研究報告〕

ジチゾンを用いる組織中放射性重 鉛 Zn^{65} の抽出法……………	佐藤 徳郎, 他	1~48
麻疹罹患率とその条件……………	今井 清, 他	1~50
最近に於ける集娼の梅毒蔓延状況 についての調査……………	田中 英	1~54
結核患者退院後の実態調査……………	田中 正好	4~46
出生時体重別にみた乳児の体重 基準値について……………	山口 健男	4~49
鉤虫卵陽性率検査のための被検者 選出について……………	水野 哲夫	4~51
捕鼠器による倉庫内のねずみ駆除 について……………	前田 弘近, 他	4~54
血液コリンエステラーゼの野外 測定法(簡易測定第二報)……………	椎木 悌二, 他	5~57
原水爆影響調査船俊鶴丸の調査 結果について……………	浦久保五郎	5~80
浮浪者と富裕者の寄生虫検査……………	間川 迪典, 他	5~88
保健所に於ける肢体不自由児療育 相談状況……………	野島 元雄	5~91
水痘, 麻疹の集団内同時流行例……………	今井 清	5~93
鉤虫駆除に対するオーミンと テトレンの効果比較について……………	村上 賢三, 他	5~96
鶏卵と細菌について……………	中西 恭生	5~99
製鋼工業従業員の眼疾調査報告……………	細川 昌義	5~103
昭和22年以降検出せる30例の縮小糸 虫について……………	丸田 喜造, 他	5~107

放射性同位元素 P^{32} を用いたコガタ アカイエカの飛翔距離測定 実験……………北野 正見, 他 5~109	中毒イカから検出されたウイルス 様粒子の同定と病原性の考察…藤原 栄一 6~46
便所ハンドルの他の汚染につい て……………野田 正男, 他 5~116	三宅島を中心として多発したあじ による食中毒の疫学的考察……石丸寅之助 6~52
BCG陽性と再接種によるコツホ 現象……………今井 清 6~32	〔座 談 会〕 保健所と衛生教育……………司会…石垣 純二 5~57
鉤虫Carrierの臨床的研究(第2報) 一般症状, 貧血, 血清 γ -globulin 及び焦性葡萄糖の消長……………石崎 達, 他 6~34	〔アンケート〕 保健所のあり方……………6~8
宮城県内の寄生虫特に鉤虫の感染 状況……………鈴木 了司 他 6~41	〔解 説〕 生活環境汚染防止基準法案をめぐって……………3~56
多槽式尿尿処理槽の研究(第1報)…木村 道也 6~44	

現今世界知名人の身体の故障

現今, 世界で最も名の出ている人々には身体の何処かに故障があつて手術などを受け艱んでいる。

その第一が米国大統領アイゼンハワー氏である。本年 65 才だが昨年 9 月には右の運動脈の栓塞で倒れて以来, 漸く癒つたばかりの処本年 6 月には回腸炎で腹部切開の大手術を受け漸く本復した様である。この手術の翌翌日にはその後の経過が早くよくなるという理由で, 大統領を起して室内を歩行させ, 同月下旬から病室から病院附近迄も散歩させ, 同月末日には退院して自宅に帰り 6 月中旬からは大統領官邸で正常の執務をしているとのことである。

その第二は世界的に高名な羅馬法皇である。この人はピオ 12 世と謂い, 78 才の時には食道ヘルニアが原因で 5 回も重篤な発作を胃に起している。アミノ酸や, 肝製剤の注射や, ビタミンなどによつて漸次身体を強化しつつ健康を取戻しつつある。そして 80 才の今日では漸く日々の正常の説教を続けられるように

なっている。

その第三は, 英国の前の総理大臣サー・ウィンストン, チャーチルであるが彼が 79 才の時には比較的軽い脳出血を起した。身体的の損傷もなく又知能も何等犯されずに, 又何等後遺症もなく, 自己の地位を元の外務大臣イーデン氏に譲つて引退した。今日 82 才の老齢だが今なおあの太巻きの葉巻煙草を嚥らし, 旅行もし, 文章を書き又画を善くしている。彼が第 2 次世界大戦間肺炎に罹つてエジプトで最初のペニシリン療法を受けた話なども有名である。

その第四は現在の英帝国の総理大臣サー・アンソニー・イーデンであるが 1953 年 4 月, 彼が 56 才の時米国ボストン市ニューイングランド, バプテリスト病院で胆石と黄疽との合併症で 3 回迄も手術を受けた。彼の回復は極めて徐々であつたが, 現今その再発はまだ報告されていない。現在 59 才である。

その五は, 中華人民共和国即ち中共の首領である毛沢東だが, この人

は結核に罹つて居り肺に明らかな病巣がある。本年 63 才である。彼は時々過労と睡眠不足とが起りつつある。或るソ連の医師は彼にシベリアの冷い, 且つ乾燥した氣候が役に立つからと切にその転地を勧めている。

その第六は, 現ソ連邦の首席でありソ連邦共産党の第一書記であるニキタ・セルゲウイチ・フルシチョフである。この人は本年 62 才である。大酒の為肝萎縮症に罹っている。ソ連の医師たちは彼に肉食と緑色の野菜及び果食とを摂ることを勧めている。そして彼は鯉鮫の腹子の塩漬を食ふことが許されている。これは蛋白を含んで居り彼はこれを嗜好している。然し彼にはウオツカという世界でも有名なアルコール分の多いロシア酒の飲用は堅く禁じられている。

その他我国の総理大臣鳩山一郎氏の脳出血などの例もあるが茲にはこれを省略する。